

右◇エントランス 天然木を贅沢に使用し、大人の深い味わいに満ちた空間に仕立てられたエントランスは、会社のこれからの方向性とコンセプトを如実に表現しています。



上右◇会議室 エントランスから続く会議室は、同じく大人の雰囲気漂う「上質」かつ「本物」に囲まれた空間に仕上がりました。

上左◇ミーティングルーム スタッフ間の活発な意見交換や、より良いアイデアの喚起を目的とし、カラフルで遊び心がある空間に仕立てました。

バブル経済崩壊以降の『失われた10年』
その余波に飲み込まれた日本経済と
消費者の元気は、未だ、失われたままである。
「総合アミューズメント施設産業」を一代で興し
自らが先陣を切って走り続けてきた事業が
いま岐路にある、と冷静に分析する。
人々を元気づけ楽しんでもらえる娯楽とは……。
これからの時代潮流を先読みし
新しい事業を生み出す叡智を集める。

風水オフィスを訪ねて 東京都港区・株式会社ワイドレジャー

『オフィスもまた店舗である』との自説を貫く新東京事務所を開設。
 新しい時代に向けた「新規事業」を創造し、優秀な人材の発掘を図る。



◇ホワイエ ウッド・ブラインドを通して差し込む自然光が見た目にも心地よく、都会の喧噪を忘れさせてくれます。



◇社長室 社長室内には、応接セットではなく円形の会議テーブルを設置することで、中身の濃い会議・商談などの会話を進めることができます。

Q2 『風水オフィス』に実際に移転されるまでに、どのような変化や体験がありましたか……。

私自身が元々、建築物が好きで店舗設計も自分流で行ってききましたが、松永先生に出会ってから『風水』の影響を大きく感じるようになりました。ヨーロッパを旅したとき、パリからベルギー、ルクセンブルグを経由してアムステルダムまで行ったのですが、よく観察してみると古い街はみな「氣の良い」ところがあり、風水カラーで外装されていて、「レイライン」の上に街が出来上がっていました。私の自宅も以前までは、モノトーンでまとめていたのですが、今では外装も塗り替えて、家の中には彩りがある生花や絵画を多く配置しています。それまでは考えもしなかったことですが、リビングルームにはシャンデリアもつけました……。人間も元を正せば「動物」です。住んでいる場所や環境に影響を受けていくのは当たり前の話なのですが、現代人はそのことになかなか気がつかない。松永先生の『風水環境科学』は、そのことを実に明快に理論化、体系化されています。そういう意味では、松永先生は「過去の宗教的な叡智と現代科学」を統合していく方なのではないかと思っています。

大分県に九六位峠という場所があります。かつて、百済の修行僧日羅上人が「瑞雲がかかる山に9頭の鹿と猪に案内されて登り、千手観音を刻んで安置し、九鹿猪山圓通寺を建立した」という縁起をもつ名刹なのですが、今、この山に登ると下には九州自動車道が走っている景色が見えるのです……。

時代と共に自然環境に人手が入り、風景や地形までもが大きく変えられてしまっている。古の『風水』術と現代の『風水』術では、その定義や内容も変わってきて当たり前のことです。そういう意味でも「自然と人間が一体化する場」としての風水術は、環境科学として発展していくものではないか、と思っています。

自宅を改装した後の成果を感じて、本社（福岡）の社長室を松永先生にご指導を頂き、場所を移して改装しました。その結果、「辞めるべき人間が会社を辞める」という現象が次々と起こり、会社の中が整ってきたと感じています。

Q1 『風水オフィス』との出会い、造作することになったきっかけとは何だったのでしょうか……。

一昨年の秋、弊社のコンサルタントをしていた方々から松永先生を紹介されたのがきっかけでした。『満月ライブ』に招待され、家族4人で養老に出かけたのが最初の出会いです。当日、私だけが開演の時間に間に合わず『満月ライブ』を見逃し、翌日、松永先生のご自宅でお話しをする機会を頂きました。

私自身、若い頃から『真言密教』や『空海』に興味がありました。また、『菊池一族』の始祖は「後醍醐天皇」の皇子「懐良親王」を奉じておりましたので、その頃の歴史を多少は勉強していました。なので、松永先生が『密教』を学ばれ、また、本物の『風水術』を身につけられている、と聞いたときから興味以上のものを感じました。

20歳のときに両親と共に四国を旅行したことがありますが、空海が修行をした霊場や旧跡を巡りながら思い浮かんだ言葉は、「まさに四国は『空』と『海』の風景である」ということでした。また、九州にも空海が唐で修行を終えた後帰国し、博多滞在の折に密教の東漸を祈願して建立したと伝えられる「東長寺」などの名刹を時間がある時訪ねたりもしていました。

『空海』については、個人的には「宇宙人」、つまり「全知全能の神」的な存在であると思っています。それは仏陀やキリスト、孔子などの偉人と同様に彼（ら）が現れる前と現れた後では、人類の歴史が大きく一変したことから、人間以上の存在を感じるからです……。

松永先生に初めてお会いしたときの印象も「宇宙人」だなぁ、この方は…….と仰うもので、しつかりと修行をされた方だということが即座にわかりました。

その後、九州の自宅を鑑定して頂き、「この家は設計者が遊んだもの」とスバリ手厳しい指摘を受けましたが、私も「デザイナーの作品」の中に住んでいるような心地悪さを感じていましたので、納得できました。

先生にご指示を受けた部分を自分たちで少しずつ改装していくうちに、ますます夫婦仲が良くなるという成果が現れました。『風水』にも興味をもっていた私には、びつくりする変化でした。

Q3 『風水オフィス』に移られて、どのような変化や周りからの反応がありましたか……。

今回、東京の事務所を移転し全面リニューアルした契機は、それまで事務所を構えていた東京駅のすぐ側にあるビルの賃料が一気に50%値上がりしたことと、ビルの規定ですべてモノトーンを基調にしたオフィスづくりを強いられてきたことが発端でした。

本社の社長室を移し改装した途端に、会社の中で大きな問題が次々と起こったことがきっかけとなり、辞めて欲しかった人間が自然と辞めていくというところで、それまでよく見えなかった課題や問題がはつきりしてきました。私は「問題は起きた方がよい」という哲学をもっています。問題ははつきりすれば、後はそれを解決していけば、事態は必ず良い方向へと動き出すきっかけになっていくからです。

『2.6.2の法則』というものがありますが、会社で一生懸命に仕事をし、利益に貢献している人間は2割程度です。また、人間は必ず群れるものです。だから、社長という立場の者は「何よりも一番、自由な存在」でなくてはならないと思っています。『論語』にもある「寄らしめず、知らしめず」ということが肝要だと……。

そこで松永先生に依頼し、オフィス探しから事務所設計までを一貫してお願いしました。その結果、ビルを全館改装したばかりで、賃料も以前より安い最良の物件が見つかり、昨年の秋に移転しました。

今回の折念したことは「創業の時と同じように優秀な人材を集め、新しい事業を興す」ことです。私は、以前から「オフィスも店舗である」と考えてきましたが、お陰さまで社員やお客様に新しい事務所の評判は上々のようですが、まだ日も浅いため来客数はさほど増えてはいないようです。

これは私見ですが、これからの10年間程度、この国の消費は更に沈み込むであろうとの景況感をもっています。しかし、どのような時代にあっても必ず光を放つ事業はあるものです。そのような事業を考え抜き、立ち上げていく第二創業期だと思っています。そのためには「生まれ変わる」こと。そろそろ見逃していた『満月ライブ』を観に行く頃なのかも知れません……。

風水インタビュー

FENG-SHUI Interview